

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100179		
法人名	合同会社 悠久		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	熊本県球磨郡多良木町久米1325番地		
自己評価作成日	令和2年12月9日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域に恩返しをしたいと思い込み開設させて頂き、5年目を迎えました。自然豊かな田園風景の中、神社やお寺が密集した地域にあり、機会ある度に行事や祭り等へ参加し、入居者様に刺激を頂いています。恒例となった保育所・小学校との交流会。敬老の日には近隣地区の一人暮らしの方を招待し、共同で行う敬老会。家族様との関係維持のため、秋には家族会・お月見会等を計画しています。町の福祉避難所にも指定されており、防災訓練にも力を入れ、防災意識の高いグループホームです。入居者様一人ひとりが今までの暮らしを、可能な限り安心して出来るよう、ご家族様・協力医・地域住民との連携を大切に、職員一人ひとりが入居者様と向かい合ったケアを目指しています。また、地域に商店が無くなりつつある今、買い物に不自由な方のため2ヶ月に1度、朝市を開催しています。5年目となり朝市も定着し、朝市を通じて入居者様・地域住民の方同士交流の場としても活躍しているグループホームです。また、昨年度より共用型認知症通所介護も開始させて頂き、更なる地域と密着した施設作りに努めさせて頂いている施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑に囲まれた豊かな自然環境の中で地域への恩恵を目指し、地域と共にした5年の歩みはこの地で確固たる基盤が築かれ、コロナ禍の中で今できる事に真摯に向き合い、運営推進会議を通じ一層地域住民との関係性が充実し、近隣住民へも「花みずきだより」に載せ開示する等透明性のあるホームが形成されている。入居者の日常は穏やかな中に、高菜漬けや野菜の収穫、おはぎを作ったりとした役割が入居者の笑顔を引き出し、コロナ禍にもできる事を見出し、共にありたいと志向を高めて臨むホームである。豪雨災害時には被災者を受け入れる等福祉避難所としての役目を果たし、この春にはユニットの増床が認可されており、防災面での地域連携をはかり、非常時においても地域福祉の拠点としての働きを大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール・休憩室等に掲示してあり、日頃から確認出来るようにしている。 職員がより理念を共有・理解し、意識を高く持って業務に就けるようにしている。	地域の中で生きる事を目指したホームは、地域密着型事業所として開設時からな住民とともにした歩みの中で、新たに1ユニットが認可されている。職員の異動も無く、前回の外部評価をもとに理念の振り返り、全職員がベクトルを同じくして臨んでいる。2ユニットが認可され、職員の増えることから、理念も見直す意向である。近隣には運営推進会議報告として「花みずき便り」としての回覧により啓発が行き届いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、限られた機会による保育園との交流会。また、朝市開催により入居者様と地域の方の交流が生まれお互いの楽しみとなっている。 回覧板にも加えて頂き、今後も地域との付き合いが密になるよう取り組んでいる。	地域住民との接点として、又地域の方々の作物を作る機会及び買い物難民支援としてホームでの朝市(コロナ感染症を見ながら)の開催、隣保班の一員としての活動、保育園児の訪問、地域住民からの野菜のおすそ分け等理念に謳う“温かい地域の方々と共に…”をまさに実践するホームである。7月の豪雨災害時には被災者を受け入れたり、近隣の一人暮らし高齢者を支援している。コロナ禍で地域との行事は減少気味ではあるが、出来得る限りの交流に取り組んでいる。	夏祭りがおこなわれない地域として、この地域の賑わいをホームで作りたいと志向を高く持ったホームである。2ユニット目ができる事で、更に地域との交流が広がる等地域の交流拠点として大いに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の日頃の生活の様子・勉強会・研修会等で得た認知症に関する知識を生かし、より認知症への理解を求めながら支援を行っている。また、地域の方・ご家族様への認知症に対する理解を深めて頂いている。運営推進会議等にて支援状況の報告・情報提供を行い、外部からの意見も広く求め、より良い支援に繋がるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・地域住民代表・地域包括センター・役場等をメンバーとし会議を行っている。 入所者様状況や活動等を報告したのち質疑応答を行っている。身体拘束廃止委員としても推進委員より参加して頂き、外部からの意見も参考にし、日頃の支援に生かしている。 また、会議報告を花みずき便りとして発行し、回覧板にて近隣地区に配布している。会議に参加できない家族様には花みずき便りをもって報告させて頂いている。	定期的開催される運営推進会議は、資料や写真という視覚を通じた報告や意見交換が行われている。このホームの特徴は委員からの意見や質問の多さにあり、委員の意見による水害等の避難訓練等に反映させている。家族の参加は難しい状況(遠方が多い)にあり、議事録により情報を発信している他、地域にも回覧板により発信する等透明性のある運営体制である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、町の担当者や地域包括センター職員に参加してもらい、会議の中で地域・町・包括・事業所とそれぞれの意見を出せるような雰囲気を作っている。	運営推進会議を通じ行政からの情報を得たり、メールや郵送によりコロナ感染症対策の情報を得ている。また、今年度は行政と相談しながら新ユニット建設に取り組んでいる。地域包括支援センターからの依頼により、豪雨災害時には被災者を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修により身体拘束となる具体的な行為や弊害について繰り返し勉強会を行っている。 入居者様一人ひとりの性格や行動の把握に努め、周辺環境の調整を行いながら身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化に向けマニュアルを見直し、資料をもとに繰り返しの研修により意識強化を図っている。管理者は入居者との慣れ親しんだ仲にも他から見てどうかを考える事を指導し、スピーチロック等日頃のケアの中で注意喚起している。入居者個々の家族の転倒には注意し、事故による入院はさせないで欲しいとの意向に、センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法など関連法について、勉強会・研修・回覧等にて知識と意識を高め、職員同士が気づき・注意し合える関係づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当グループホームでは制度利用者はいないが、研修・勉強会にて職員が制度を正しく理解出来るように学ぶ機会を設け、知識向上を行いながら、入居者様の権利が守られるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には本人・家族様に重要事項説明書に沿って説明を行い「保険分」と「自費分」を分かりやすいよう説明している。また、入居前にはホーム内の見学を行い納得して頂いた上、締結を図っている。解約時にも本人・家族様の意向に沿った方法にて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用料の請求の際には、毎月の居者様の生活状況などを担当者により手紙に書き、送っている。 面会時等に入居者ご家族よりの意見も頂いている。 ホームには意見・苦情箱も設け、ご家族様からの意見を反映しやすいよう取り組んでいる。	毎月写真付きで日常の発信と、担当職員による健康・生活状況を記し、便りの中で意見や要望を出して頂くよう記している他、面会時意見等を聞き取りしている。コロナ禍で面会が困難な状況に、少しの変化も家族に報告している。家族からの苦情は出されていないが、感謝の言葉が寄せられており、職員のモチベーションとして生かされている。	開設、入居から5年、今の家族の気持ちを聞き取りし、家族の思いに寄り添いたいとしている。コロナの収束にめどが立てば、ころまで開催されていた家族とのお月見会等再開されることと大いに期待したい。家族が一堂に会する機会は難しい状況であり、訪問時に家族の思い等を聞き取りされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス・申し送り時を利用して職員の意見を出しやすい職場作りに努めている。個人面談も行い、より良い意見・提案の場に繋げている。	日々の申し送り時や毎月のカンファレンス時及び勉強会等職員意見や提案等出す機会が多く、環境面等職員は直接管理者に申し出る等風通しの良い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮して、やりがいのある職場。向上心が持てるような就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、研修を受ける機会の確保や要望を受け入れている。 職員が学びたい研修等がある場合には積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉球磨GH協議会への参加を通じて、周りの見聞を広め、交流することで質を高められるよう取り組んでいる。その他ICTを使用した研修・勉強会等にも参加し質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面談を行い、本人様の困りごとや不安・要望などを聞き出し、支援方針を決めることとしている。 入所された後も安心・安全に生活を送って頂けるよう、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確な情報提供を求め、困りごとや要望を伺いながら、実現に努めている。 また、毎月のお便り(入居者様の日々の生活状況等)や特変時・通院時等の際にもこまめに報告・連絡を行いながら、安心な関係・環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前は、訪問・見学をして頂き、直接面談し、その人に合った支援を本人様・家族様・ホーム・医療機関とも連携しながら、適切な支援方法を行えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に体操やレクリエーションをしたり、食事も一緒にテーブル席で同じものを食べ1日を共に過ごしている。 また、家事動作等、一人ひとりが特徴を生かせるような役割を持って頂きながら、互いが助け合えるような関係・環境が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族様に日々の生活状況などを記入し郵送している。 また、受診報告や体調の変化があった際等にもこまめに家族様へ報告・連絡を行っている。 遠方の家族様がおられる入居者に電話の取次ぎなど何時でもできるように対応している。面会に来られた際には、出来る限り、本人様と家族様とのゆっくりとした時間が過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り家族様や知人・友人の面会時等にはゆっくり過ごして頂くようにしている。 遠方より家族様が帰省された際には、これまでの馴染みの関係の継続に家族様の協力も得ながら支援している。	田畑に囲まれ入居者の住み慣れた場所にあるホームそのものが馴染みである。また、入居者同士や職員の入れ替わりも無く、携帯を持ち込み家族との会話を楽しむ方や、家族の訪問、毎年神社に奉納される菊を地域から持ち込まれる等人・場所との関係性を家族や地域等の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を日々の関りより把握しながら入居者様一人ひとりが孤立することのないように入居者様同士が関わり合い、支え合えるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様より相談があった時には、本人様のこれまでの習慣・好み等また、ケアの情報等をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや希望を日常の関わり合いにより汲み取れるように支援している。 意思疎通の難しい方は選択できるような声掛けや、表情・行動等により推察するなど、本人様の意思決定に寄り添えるような支援をしている。	認知症としてばかりに捉われず、日々のケアの中から行きたい場所などを引き出したり、意思表示や発語困難な方等に表情・行動から推察する等観察力や気づきをケアに反映させている。また、職員は選択できるような言葉を使うことで自己決定の場を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の基本情報・個人記録等を職員が常に共有し、日々のケアに繋がるようにしている。 気になる事があつたらその場で随時話し合うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の出勤時にはまず先に入居者様へ挨拶を行いその日の心身状態の変化に気付けるように努めている。 業務前には日誌・受診報告書等を読み、申し送りを行い一人ひとりの状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様・職員との話し合いの場を設け、援助方針や目標を立てている。 職員が日々の関りを通して気づき・様子を毎月のカンファレンスで話し合い、より良いプラン作成へ繋げられるように努めている。	利用者・家族の希望等個々のニーズを基にしたプランを作成している。全員での毎月の話し合い及び3ヶ月毎のモニタリングによりプランの可否を見極めるとともにケアマネジャーとしての評価や職員の気付きを追記している。家族の「のんびりできる事をしながら100歳を迎えてもらいたい」という思いに対して、出来る事や役割を見出した生活をプランとしたり、認知的な変化には短期間で見直す等原状に即した具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりの健康状態・日々の生活等を記録し、常に入居者様の状況に応じた支援に繋がれるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の関りを通して入居者様のニーズを引き出せるような関係づくりを心掛け、これによって生まれたニーズに答えられるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の行きたい場所・興味などを日々の生活の関わり合いの中から把握し思いを見つけ出す努力をしながら、出来る限り一緒に出掛けたり、地域に交わりながら楽しみのある生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医にて日常的な診療をしていただいている。 急変時等には往診等していただけるような関係づくりが出来ており、その他の専門医を受診する際には主治医に報告・相談を行い、スムーズな受診に繋げて頂いている。ホームでは続けて良い信頼関係を築けるよう努めている。	入居時に緊急時には往診も可能である協力医の存在を説明しており、全員が協力医療機関を受診している。専門医受診には協力医に相談し紹介状による受診を現地集合などにより家族と一緒に支援している。訪問歯科の採用や、24時間の医療連携を図り、健康管理の徹底により早期発見に努め、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師へ入居者様の心身状態の変化や・気づきを伝え、入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は入居者様のストレスや負担軽減になるよう、看護職等との情報共有に努め、早期退院できるよう働きかけている。 看護師との情報交換にて、家族様とホームにて連絡・報告を行っている。 退院後も情報提供・共有のもと、早期復帰に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、看取り指針をもとに終末期まで支援させていただく事を説明している。 家族様の気持ちに寄り添い、重篤化・終末期に向け、家族様。主治医と繰り返し納得されるまで話し合いを行い、支援をしている。 ホームで取り組めること(喀痰吸引研修受講など)を増やし、出来るだけ最後まで協力医と共にチームで寄り添ったケアが出来るように支援している。	看取り指針のもと、本人・家族の希望であれば尊厳を守りながら、看取りケアを行うことを説明し、その時々で家族の思いも変化するとして話し合いを重ねながら支援している。少しでも長く生きて欲しいとの家族の思いに入院されたケースもあるが、入居者の最終章に職員・家族及び協力医の指示等によりチームとして一丸で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救急救命講習を受講しており、緊急時のマニュアルもすぐに関覧できる場所に準備している。 定期的に勉強会・講習会に参加し全ての職員が初期対応・救急対応への実践力が身につくよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定した防災訓練を年に数回計画し、実行している。 近隣住民・ご家族様と合同で避難訓練を行ったりと、地域との連携強化に努めている。 また、もしもの災害時には町と連携し、町指定の福祉避難所としても活用できるようにしている。	自然災害や火災等を想定した訓練(避難通報及び消火訓練)や運営推進会議委員の意見を基に防災マニュアルを作成している。備蓄として水・非常食・卓上コンロ等を用意し有事に備えている。また、ホームは町指定の福祉避難所となっており、豪雨災害時には地域包括支援センターからの依頼により被災者を受け入れている。	これまで地域住民や家族との合同訓練が行われていたが、コロナ禍の中で中止せざるを得ない状況に通報・消火訓練や非常災害時の対応の勉強会を開催している。コロナ収束により、地域との合同訓練が再開されるであろうと大いに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損なわないような声掛けを努めている。 重要な書類などは同意のもと保管・管理をしている。 また、職員には守秘義務を徹底するように指導し、個人情報漏洩しないよう周知徹底している。	入居者個々の生活環境等バックボーンを把握し、人格や尊厳を損ねないよう声掛けし、本人の納得を得たうえで支援している。個人情報保護として広報誌への写真の掲載や居室入り口の氏名の掲示に至るまで同意書を交わしている。また、職員へも守秘義務の個人情報漏洩のないよう徹底させ、スピーチロックには注意喚起している。	職員の入職時に口頭で守秘義務や個人情報等を説明されており、退職後の情報漏洩等文書化して同意を交わすことを検討いただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを気軽に伝えられるような関係づくりに努めており、入居者様が自ら意思にて決定できるような工夫を行い、それを日常生活の中で生かして過ごされるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、本人様のペースにて1日を過ごされるように支援している。 入居者様の状態によっては希望に添えない部分があるかもしれないが、出来る限り、入居者様一人ひとりの希望に沿った支援・要望を聞けるよう、職員も努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室にご家族様や職員が付き添って行ったり、馴染みの訪問理容を利用して関係が途切れないように支援している。 毎日の洋服も本人様の好みの服を選んで着て頂き、お洒落を体感出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望に合わせ、下ごしらえ・味見・台拭き・後片付け等をしていただいている。 また、近所の方より野菜を頂いたり、ホーム菜園で収穫した新鮮で旬な野菜を使用するようにしている。 職員も一緒のものを食べ、会話に生かしている。	専任料理者を中心に、地産地消の活用や、菜園の野菜、頂き物等旬の野菜等を提供している。職員も同じものを食すことで会話を引き出している。入居者も、下ごしらえや味見、台拭き等できる事で食に関わり、日曜日の朝食は手づくりパンの日として、見当識に反映させている。また、みょうが饅頭や牛の日にはうな井、ちまき、おはぎ等入居者も一緒になって取り組まれており、その様子は「花みずきたより」で住民にも披露している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、一人ひとりの習慣や状態を把握し、食事形態にも柔軟に対応するように努めている。 水分摂取もチェック表を設け、把握しながら摂取して頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来るだけご自分にて口腔ケアをして頂き口腔内を清潔に保てるよう支援している。 不十分な個所については職員にて仕上げを行い支援している。 また、毎日就寝前には消毒剤により義歯の消毒を行っている。 自歯の方には残っている歯を大切に残せるよう馴染みの歯科医院にて指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を設け、一人ひとりの習慣・状態を見ながら声掛け・誘導などを行い、失敗による自尊心を損失させないように工夫し取り組んでいる。	排せつチェックにより個々の状況を把握し、失禁をせず尊厳や自信をもった生活を支援したいと声掛けや誘導等によりトイレでの排泄を支援している。夜間帯も個々に合わせており、居室でのポータブルトイレの使用や、尿取りパットの大小を検討し、紙パンツを使用する際には、まずは試してみる事としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション活動にて運動や体操・マッサージ等を実施し体を動かして頂いている。また、水分補給・食物繊維の多い食事で、出来るだけ自然に排便が出来るように工夫をしている。それでも便秘が続く時には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員と1対1でゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。通常は1日おきに交代で入って頂いているが、基本は希望により何時でも入浴可能な準備をしている。入浴剤・菖蒲湯・柚子湯等にて季節感を味わって入浴出来るように支援している。拒否があった場合にも強制せず、シャワー浴・足浴・清拭等で対応し清潔維持に努めたり、トイレのタイミング等に声掛けを行ったりと工夫しながら入浴が楽しめるよう支援している。	入居者の希望があれば、いつでも入浴できる様準備している。寒い等の利用により入りたくない場合には無理強いせず、タイミングを見ながら声を掛けたり、シャワー浴や足浴等で清潔保持に努めている。また、汚染時にはその都度シャワーにより清潔に努めている。入浴剤の使用やしょうぶ湯、冬至のゆず湯や職員との1対1でのゆっくりした入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が入居者様の1日の暮らしの流れを把握し、申し送り・カンファレンスにて繋げることで、より、より安心して過ごし易いような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書やカンファレンスにて処方薬の効果・副作用の説明を行い、服薬忘れ・誤薬等の無いようチェック表を設けている。 また、服薬後の症状の変化・確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・下ごしらえ・片付け等の家事動作など、役割を持って頂き、生活歴を生かした支援に努めている。 日常生活の中で本人様の力を発揮できるような支援をしている。 また、好みの服の購入・近所への散歩・誕生会等の行事を行い、楽しみとして気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望を日々の関わり合いにより汲み取れるような支援をしており、希望時には出来る限り、外出できるように支援している。 出来る範囲で馴染みの場所や祭り等への参加を行っている。	コロナ禍の中では、家族の協力は難しい部分もあり、自分の家の田んぼの植え付けが終わった様子見学に出かけたり、花見やコスモス見学等出来る限りの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は金銭トラブル防止のため個人的には所有されてはいないが朝市等の際に、ご自分で希望の買い物が出来る環境を提供し、買い物をする喜びを味わっていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等の郵便物の制限はなく、自由にいただいている。 本人様のご希望にて電話を掛けたり、ご家族様からの電話の取次ぎなどをし会話を楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには車いすに対応出来るようスロープがあり、足が不自由な方のために全館手すりを用意している。廊下にもエアコンを取り付けており、冬場の寒暖差を解消している。寛いで過ごして頂けるようにホールの環境も整えている。 天窓からの採光・ホール・居室は掃き出し窓にて田舎特有の四季の景色・鳥や虫の声も身近に楽しめる。 季節の花や、旬の野菜を飾ったりして、季節感を感じて頂けるような工夫もしている。	玄関先にプランターや地域より届けられる花鉢等訪問者を受け入れ、明るいきりびんぐ食堂を中心に左右に居室が配置され、ウッドデッキでは四季の移ろいを楽しみ、騒音も無く、田舎暮らしを満喫できるホームである。職員もアケビを飾ったり、四季折々の壁面飾りは季節感を醸す等職員の工夫が随所に表れており、居心地の良い環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは広々とし、ゆっくりと寛げるスペースを確保している。ソファ席で雑談しながら好きなテレビを見られたり、食事テーブルを囲んで雑談や塗り絵等の作業をし過ごされたりと入居者様同士が好きな場所で思い思い過ごすことの出来るように支援している。 また、一人になりたい際にはカウンター席を活用されたり居室にてゆっくりと過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族様へ居室は自宅の延長で1つの家として使って頂きたいとお伝えし、本人様にとって居心地のいい環境になるように今まで自宅で使用しておられた、馴染みの家具等を持ち込まれ本人様の過ごしやすい場を提供できるように支援している。	入居に際し、馴染みあるものが入居者の生活に不可欠であり、自宅の沿線上として捉えて欲しいと説明している。入居時には必要最低限の物を持ち込み、不足するものは入居者と一緒に自宅へ取りに行きながら揃えている。洋服ダンスや時計、布団や写真などが持ち込まれ、車いす使用が多くなり移動しやすい様に整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリー化されており、手すりやスロープもあり、入居者様に安全な作りである。 ホールからデッキまでは掃き出し窓になっており自由に行き来でき、暖かい日にはデッキにてお茶をしたり、レクリエーションを楽しまれている。 出来る限り入居者様には残存能力を生かせるような支援を心掛けている。		